



Socio express

エクスプレス

社会科教育法

学力差を乗り越える授業のネタと、主体的・対話的で深い学び／河原和之 ②

授業実践レポート

社会の形成に積極的に参画する力を育む社会科学習／近河寛就 ⑥

生徒の市民性を育むために／岩岡正紘 ⑧

【新コーナーのご紹介】

デジタル教科書 古代の学習でのワンポイント活用例／吉田英文 ⑩

教育出版

学力差を乗り越える授業のネタと、 主体的・対話的で深い学び

河原 和之

●かわはら かずゆき／立命館大学非常勤講師

●1. はじめに

大人も子どもも両方がおいしく食べられるスパゲッティを作ることは可能だろうか？のっけから授業とは関係ない話だが、これは2016年に放映された天海祐希主演のテレビドラマ『Chef～三ツ星の給食～』の一話である。一流の料理人である天海は、親子給食会を開催し、親子に同じスパゲッティを提供して、両方に「おいしい」と言わしめた。プロの料理人の所以である。教師は教えるのが仕事であるから、勉強が苦手な生徒も、また得意な生徒も、同じ“メニュー（教材）”で、双方が意欲的になれる、しかも、わかる授業をつくるのが大切である。そのためには“学力差”を乗り越えることができる教材や発問、そして討議課題が不可欠である。本稿では、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）と授業のユニバーサルデザインの視点に立った授業事例を紹介する。

●2. 学力差を乗り越える発問、討議課題

授業で生徒の意欲を一気に高める優れたネタがある。そのネタが単元のねらいと合致すれば、わかる授業を展開することができる。このような優れたネタを私は“勝負球”と命名している。例えば①「山中湖のMホテルが宿泊費をタダにするのは、どんな時期でどんな場合か？」、②「藤原道長が娘の彰子を魅力ある女性にするためにしたことは？」な



どの発問、学習課題である。

これが“勝負球”たる所以は、生徒の学習意欲を喚起し、「知りたい」と思えるテーマだからである。また、学力差に関係なく、すべての生徒が「発言してみたい」と、身を乗り出す内容である。少し解説を加えよう。

①は、富士山の頂上が1分以上見えなければ無料になることを確認する^{*1}。ホテルの許可を得られれば、教室から生徒にMホテルに電話取材をさせることも考えられる。「これは何月に企画されるのか」と問う。答えは「1月」である。山中湖周辺は、太平洋側の気候に属し、冬の降水量は少なく、1月はほとんど雨や雪が降らないため富士山の頂上がよく見えるのである。「宿泊費がタダになるホテル」から太平洋側の気候の特色が理解できる。

②は、「彰子は何歳で一条天皇と結婚したか」（答：11歳）、「当時の婚姻制度は」（答：妻問婚）、「彰子是一条天皇の寵愛を受けることができたか」（答：NO）、「平安時代にはどのような女性が魅力的とされたか」（答：色白、髪が長い、漢文と和歌の素養など）、「藤原道長は、娘の彰子が一条天皇の寵愛を得られる

ようにするためにどうしたか」(答：紫式部を家庭教師につけ、漢文と和歌の素養を身につけさせた)、などの発問が考えられる。また、『源氏物語』は恋の指南書として彰子にむけて書かれたとする説もあることを紹介する。ここでは漢文が重要だ。国風文化は、日本独自の貴族風の文化と言われるが、中国文化の咀嚼・消化のうえに成立した文化である。「撰閣政治」の授業でも、婚姻制度、当時における魅力的な女性の条件、文化等を絡めながら、重層的で脈絡のある、学力差をこえた学びを展開することができる。

● 3. 島根は昔から人口が少なかったの？ ～過疎問題の解決と地域再生～(地理)

“ご当地ネタ”クイズから島根県の現状を考える。

<クイズ>

- ・ 県名より(①)のほうが有名。
- ・ 県人口は約(②)万、神様は八百万やおよろず。
- ・ 県人口が(③)に抜かれた。
- ・ (④)のロケ地です。

(書籍などを参考に13問作成したが、紙数の関係で略。)

答えは、①出雲大社、②70、③練馬区(東京都)、④古事記、である。

だが、1876年時点では、東京の人口約86万人に対して、島根は約101万人と、島根の人口のほうが多かった^{*2}。

<グループ討議>

どうして、島根県の人口は減少したのか？これらのモノを通して、産業の視点から考えよう^{*3}。



生徒どうしの討議からは、牛肉では「牛は、農作業などに使用された」、「牛肉はダイエットブームで食べられなくなった」、「外国から安い牛肉が入ってきた」など、電卓では「そろばんから電卓に変わった」など、和紙、炭・木材では「和紙ではなく、洋紙が使われるようになった」、「炭が燃料だったのが石炭や石油になった」、「木材は建物がコンクリートなどに変ったから」、「輸入木材も多い」、「住居が和式ではなくマンションなど洋式になった」などの意見が聞こえてくる。

これらのモノから産業の移り変わりを分析し、人口減少の背景を考えた後、島根県邑南町の地域再生をビンゴゲームで考える。2017年1月現在、邑南町の人口は11208人である。邑南町は2013年度に20人、14年度も6人、15年度も28人と連続して人口の社会増を実現しており、25歳から39歳の女性の転入が多い。合計特殊出生率も、この5年平均(2010～2014年)で2.06になる。

その要因には「妊婦健診の無料化(16回まで)」、「中学生以下の子どもの医療費の無料化」、「第二子からの保育園での保育料と給食の無料化」などの子育て環境の整備や、「A級グルメのまちづくり(米、石見和牛、石見ポーク、野菜やハーブなど地産地消の料理)」、「観光協会直営のレストランの経営^{*4}」、「自然農法野菜づくり講座」などの仕事と生活の保障がある。これらの項目以外に、「婚活パーティー」、「中学生の修学旅行が無料」、「観光ボランティア」など正解ではない項目を10個加えて例示する。その16項目から9個を選んでカードに記入させ、ビンゴゲームを

通じて、楽しく地域再生について考える。

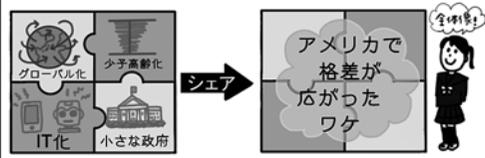
“ご当地ネタ”は、教材そのものが“勝負球”であり大人も楽しめる。また、“モノ”から過疎の要因を分析することにより、深い学びにつなげることが可能である。ピングオを通じて地域再生の方法を考え、それを一般化することで、地方再生の見方・考え方を培うことができる。

●4. アメリカの貧困と現代社会の特色(公民)

アメリカでは、4人家族(大人2人と子ども2人)の場合、年間所得が2万4036ドル(約266万円)以下の世帯を貧困層という。人口約3億2000万人のアメリカで、約4310万人がこの貧困層とされる^{*5}。アメリカでは貧困層が増えている一方で、所得上位1%のお金持ちの収入は、ここ30年間で3倍以上になった。なぜ、格差が広がっているのか?現代社会の変化からその要因をジグソー学習で考える。
(ジグソー学習の流れ)

なぜ貧困層が増え格差が広がったのか?

- ① クラスを4人グループに分ける。
- ② 「グローバル化」、「少子高齢化」、「IT化(ロボット化)」、「小さな政府」の意味を簡単に説明する。
- ③ グループ内で上記4テーマの担当を決める。
- ④ テーマ別学習会(1班4~5名で10分程度)を行う。(エキスパート活動)
- ⑤ グループに戻り、各テーマの情報をシェアする。(ジグソー活動)
- ⑥ グループごとに貧困と格差の背景をまとめ、全体に説明する。(クロストーク)



(テーマ別学習会)

アメリカで貧困層が増えたのは、現代社会の三つの特色と「小さな政府」が要因であると言われている。「貧困」と「格差」が、この四つとどのように関係しているか考えよう。

(各テーマでの生徒の発言の例)

◆グローバル化

- ・低賃金で働く外国人労働者が多くなり、賃金が下がる。
- ・海外へ企業が移転するので、国内に働くところが少なくなる。
- ・英語に堪能な人とそうでない人の格差が出てくる。

◆少子高齢化

- ・会社は、ITなどを使えない人(高齢者など)に高い給料を払わない。
- ・少子化により働く人(労働力人口)が減ってくる。
- ・少子化によって家族内で高齢者への援助を行うことが難しくなった。
- ・高齢者が増えると、医療費や年金が増え、生活保護が不十分になる。

◆IT化

- ・単純な仕事を機械やロボットがするようになるので、人が働く場所が減る。
- ・十分な教育を受けていない人はIT化に対応できない。
- ・高齢者や貧困層は科学技術を十分に学ぶ機会がない。
- ・機械化すると人件費が低くなる。

◆小さな政府

- ・医療、教育、生活保護を含め十分な保障がないので、社会的弱者が困る。
- ・生活が苦しくなっても自己責任で対処しなければならない。
- ・競争社会なので、教育格差があり、それが社会に出てからも続く。
- ・高所得者に有利な税システムになっている。

グループに戻り、テーマごとに学んだ内容

を報告し、貧困と格差の背景を四つの軸から分析しまとめる。以下が生徒の発表例である。

◆発表例1

少子高齢化により労働力人口が減り、海外からの低賃金労働者が多くなりアメリカ人の働く場が少なくなる。またロボット化により雇用が減る。高齢者をはじめとする低所得者は小さな政府のため生活保護が十分でなく医療費などでお金がかかる。

◆発表例2

貧困層や高齢者は教育の機会も十分でないでIT化に対応できない。グローバル化により、海外からの安い労働力はアメリカ人の雇用を減らすだけでなく、賃金を低下させる。小さな政府なので、医療費を支払えない高齢者が困る。四つは、悪循環を繰り返し、ますます貧困と格差を生む。

ジグソー学習には、有効な題材とそうでない題材がある。本題材は、「アメリカの貧困と格差」の背景にある現代社会の特色である「少子高齢化」、「IT化」、「グローバル化」と、アメリカの特色「小さな政府」を軸に分析する授業である。AI(人工知能)時代になると、ますます貧困や格差が広がる傾向は加速するだろう。本授業では、個別テーマのみでは明らかにならないその背景も、四つの指標から分析することで、その全体像が見えてくる。学力差をこえた“深い学び”をジグソー学習により可能にしている。

●5. おわりに

学力差を乗り越える授業のネタとアクティブ・ラーニングの事例を紹介した。次期学習指導要領(案)で「主体的・対話的で深い学び」が注目されているが、いわゆる勉強が苦手な

生徒は、往々にして学習意欲をもちにくく「非主体的」になってしまい、話し合いに積極的に参加し「対話」することも難しい。そうした状況から「深い学び」などはとてもおぼつかない。しかし、意欲的に追究したくなる教材の提示と、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善により、ユニバーサルデザイン型授業が可能となる。すべての生徒の目が輝く授業をつくることは、プロである教師の責務である。そのためには、教師が教材研究に取り組む時間を確保できる環境づくりが不可欠であろう。

- ※1 実際には無料宿泊券がプレゼントされる。1971年に始まった名物企画である。
- ※2 当時、島根県には現在の鳥取県が含まれており、東京府には現在の多摩地域が含まれていない、ということも背景にある。
- ※3 島根県では、しまね和牛肉などの畜産や、中国山地産の木材・木炭の生産、伝統的工芸品に指定されている雲州そばんや石州和紙の生産がなされている。
- ※4 2015年に邑南町観光協会から独立し民営化された。
- ※5 United States Census Bureau(アメリカ合衆国国勢調査局)「Income and Poverty in the United States: 2015」による。

参考文献

- 河原和之『100万人が受けた「中学地理」ウソ・ホント?授業』明治図書出版、2012年
島根勝手に応援会『島根自虐伝』PARCO出版、2015年
大江正章『地域に希望あり』岩波書店、2015年
「世界で広がる貧富の差」(『今解き教室』2013年7月号)朝日新聞社

イラスト：山本松澤友里

社会の形成に積極的に参画する力を育む社会科学習

近河 寛就

●きんかわ ともなり／長崎県佐世保市立広田中学校教諭

●1. 社会参画力とは

本稿は、第48回九州中学校社会科教育研究大会(2016年)において、長崎県社会科教育研究会が「社会の形成に積極的に参画する力を育む社会科学習」を主題に掲げて研究・発表を行った実践を紹介するものである。

「社会参画」の言葉が頻繁に使用されるようになった背景には、国内外の急速な社会変化が挙げられる。その中で、戦後日本が構築してきた既存の社会システムの再編が求められており、その時代に生きる我々には、どのようにすれば持続可能なよりよい社会が創れるか、という課題を突きつけられている。

そのような社会に飛び出す中学生に、社会の課題を捉え、その課題に対応し、解決する手段を考えて行動する力を養わせるために、社会科が果たすべき役割は大きい。そこで地理的分野でも「社会参画力=社会の形成に積極的に参画する力」の育成を図った。

●2. 地理的分野における「社会参画力」

地理的分野における社会参画については、学習指導要領では「身近な地域の調査」の部分に明記されている。この身近な地域の調査では、観察や調査などの学習活動を中心とする傾向がある。しかし、今回の研究にあたっては、身近な地域の事象を日本や世界の諸地域の学習へと発展させるとともに、日本や世界の諸地域での既習内容を身近な地域の事象への視点につなげる、といった学習を双方向的に繰り返し、地

理的認識を深めさせることが社会参画力の育成につながると考えた。

2016年度に、本校生徒を対象に行ったアンケートの中に興味深い数値があった。「社会でおきている様々な事象・出来事に興味がある」、「自分の暮らす地域の出来事や課題に興味がある」という二つの質問に対して、「そう思う」と回答した生徒の割合は、前者の質問に対しては72%、後者の質問に対しては25%であった。これは、マスメディアなどを通して感じる「社会」と、実際に自分たちの近くにある「社会」との感覚が乖離していることの表れであろう。

中学生段階では、自分たちの周辺地域に存在する「現象」を「当たり前の事象」として捉える傾向にある。上記のアンケート結果において後者の割合が低いのは、地域そのものに興味がないのではなく、生徒にとってすべてが当たり前の事象で、そこに問題や課題があることに気づいていないことが大きな理由であると考えた。

以上のことから、地理的分野において「社会参画力」を育むためには、まず身近な社会の現象に関わる課題をはっきりさせることが大切であると考えた。

●3. 佐世保市広田地区(本校校区)の現状

今回は、「日本の諸地域」(中国・四国地方)の単元を、「人口や都市・村落を中核とした考察」を基にして学習を進めた。この「人口や都市・村落を中核とした考察」こそ、本校校区が抱える課題を捉えるうえで、顕著な事例と言える。

本校は開校26年を迎える。開校した当時、周辺には耕作地が一面に広がっていたが、今ではその面影は無くなり、新興住宅地が造成されている。そのため、平成29年度からは、近隣小学校の生徒数増加に伴う教室不足の解消策として、本校敷地内に小学6年生用の新校舎を建設し対応することが決定している。これは長崎県下では初の試みで、新興住宅地である本地区の「課題」として捉えるべき事象と言える。

●4. 授業づくりにあたって

今回「人口や都市・村落を中核とした考察」を基に中国・四国地方を取り扱ったが、最も苦慮したのが、身近な地域の課題をいかに中国・四国地方の学習へとつなげていくのかという部分である。そこで単元初回の授業における目標を「自分たちが住む地域の人口の変化や生活への影響について考える学習を通して、日本の諸地域で見られる人口問題について興味・関心をもつことができる。」と設定した。研究仮説は、「身近な地域でおきている人口に関わる事象から、地域の特色を考え、まとめる学習を行うことで、社会的事象に関心をもち、今後のあり方を考えることができるであろう。」というのだが、その中で授業最後のまとめの部分はいかに取り扱うかという問題に直面した。つまり、授業のまとめ方によっては、生徒がただ単に「(独立した)地域学習を行った」という意識をもちかねないという危惧があった。この1時間は、あくまでも次時から学習する内容を、自分たちにも当てはまる現状や課題として捉えるための意識づけの授業である。よってこの1時間のまとめ方も、人口問題を捉える「視点」を養わせることに意義がある。

そこで、授業のまとめ方として、本県を含む九州地方の県別人口の増減についても考える内容を取り入れた。これは、人口増減に関する視点を身近な地域から他地域へと広げさせること

	学習活動	教師の指導と支援
導入 (10分)	学習課題：人口増減が人々の生活に与える影響を考えよう。 ●学校周辺の写真を比較する。	○現在の中学校周辺図と25年前の中学校周辺図を比較して、周辺地域に人口増加がおこっていることに気づかせる。
展開 (25分)	発問：人口が増加・減少したら、どのような変化がおきるだろうか。 ●人口が増加したらどのような変化がおこるか考える。 ●人口増加による変化の中から問題点を探す。 ●人口が減少したらどのような変化がおこるか考える。 ●人口減少地域を予想する	○人口が増加することで発生する社会の様々な変化について意見を出させる。 ○身近な地域でおこっている人口増加には、よい点だけでなく問題点も含まれることを確認する。 ○人口減少による社会の変化と問題点について意見を出させる。 ○現状について経験も交えて説明する。 ○人口減少地域も身近にあることに気づかせる。
まとめ (15分)	●都道府県別人口増減について考える。(九州各県を例に、人口の増加・減少が発生する原因について予想する。)	○原因を推測しながら都道府県単位での人口増減を考えることで、身近な地域から他地域へと視野を広げさせる。 ○本時の授業が、身近な地域の学習で完結するのではなく、本時で得た人口に関する視点を次時からの学習の中で生かすことを確認して授業を終える。(自分の予想を次時からの授業で検証するよう伝える。)

① 本時の展開

を目的としている。これによって、人口問題が、周辺地域だけでなく、全国各地で発生している問題であることに気づかせ、身近な「社会」と全国的な「社会」との間で乖離している感覚を一致させることができるのではないかと考えた。さらに、九州地方の人口増減を考えさせる際に推測させた理由が、中国・四国地方にも当てはまるかという課題と、この1時間の授業で得た視点を次時からの授業において活かすことを確認して授業を終えた。

●5. 最後に

単元の最後の授業では、単元全体を通して学んだ内容を基に、過疎・過密の現状と課題をまとめ、日本全体の課題として捉えなおす活動を実施し、初回授業で扱った身近な地域についても確認して、生徒の意見を文章で表現させた。このように、身近な地域と日本(世界)の諸地域を行き来しながら知識を深めることが、自分達が生きる社会に関わる態度を養うことになり、地理的分野における「社会参画力」の育成に効果を及ぼすのではないかと感じている。

生徒の市民性を育むために ～政治学習を通して～

岩岡 正紘

●いわおか まさひろ／静岡県浜松市立三ヶ日中学校教諭

●1. 市民教育(シティズンシップ教育)の可能性

若者の政治離れが叫ばれて久しい。さらに少子高齢社会が急速に進展する中で、いかに若者を政治参加させていくかが問われている。そのような中で18歳選挙権という大きな変化も出てきた。このような時代の中で、「市民」の育成における社会科の重要性は増すばかりである。この場合の「市民」とは、単に権利の主体ではなく、自らの権利を大切にしながらも他者の権利を尊重し、自他ともに幸せになれるよりよい社会をみざせる人であると考えている。これは単純に選挙に行く若者を育てるためのものではなく、自分から動いて社会をよくしていくことのできる人材を育成していくことであると言える。そして、「市民」を地域社会の一員としての市民から地球社会の一員としての市民まで多元的に考えることで、従来の国家の枠にとらわれず、互いを尊重し合い、認め合い、よりよい空間・社会をみざしていくことのできる市民教育(シティズンシップ教育)が可能となると考える。

●2. 社会科教育を通して育てたい市民性

社会科において上記のような「市民」を育成していくためには、「社会を観る」目を育てることが重要であると考えている。この「社会を観る」目とは、①社会的事象に対して様々な切り口、角度から見る事ができる目、②立体的にとらえた社会的事象を批判的精神で観る目、③未来を見据える目、であると考えている。このような「社会を観る」目を育てることで、社会事象

の本質をつかみ、他者意識をもち、そこに批判的精神を加え、将来までを見据えてどうすべきかを考え、行動につなげていくことができる。「なぜ」を問うことから始まり、「どうするかを求めることがこれからの社会科では重要となってくると考える。

●3. 実践事例

本実践は、学習指導要領における「私たちと政治」に当たるものである。本単元の共通テーマを「現代日本は民主主義の国といえるのか」とし、学習を進めた。今回紹介する実践は、単元のガイダンスであり、2時間扱いで行った。

(1)第1時

政治学習を始めるにあたり、政治とは、様々な利害が対立する中で、話し合い、お互いに合意できる点を見つけながら、よりよい社会をみざしていく営みであることを確認させたいと考えた。また、その際には、様々な立場や視点、資料から自分の意見をもつことが大切であり、「社会を観る」目の①「社会的事象に対して様々な切り口、角度から見る事ができる目」の重要性に気づかせたいと考えた。そこで、「18歳は大人か」というテーマのもと、討論を行うこととした。

選挙権年齢が満18歳以上へと引き下げられ、生徒の注目度が高いことに加え、様々な法律による年齢規定の違いがある(例えば民法上では20歳をもって成年であり、飲酒・喫煙も法律で満20歳以上からとなっている)など、何歳をもって大人というかは難しく、判断が分かれると

ころであり、これをテーマに討論を行うこととした。そして、法律による年齢の違い、外国の様子、歴史的な経緯などの資料をもとに、討論を行った。以下は生徒の振り返りである。

- ・どうやっても全員がどちらかの考えに賛成することはできないが、自分はこういう意見だけど、〇〇というところは△△でもいいね、などとまとめることも大切だと思った。
- ・様々な面から考えたつもりだったけど、相手の意見を聞くことで自分の考えを改めて見直し、より深めていくことができた。討論の大切さを感じた。

このように、よりよい社会を形成していくには、様々な対立点について話し合いによって合意できる点を見つけていくことが大切であることや、社会的事象を多面的に見つめ、さらに話し合うことによって認識を深めることができることに気づかせることができた。

(2)第2時

よりよい社会をつくっていくためには自分の意見をもつことが重要であるが、自分の意見をもつうえで重要な役割を果たすのがメディアであろう。そして、メディアの論調に自分の意見が流されているのも事実である。そこで大切になってくるのが「社会を観る」目の②「立体的にとらえた社会的事象を批判的精神で観る目」であると考えた。そこでこの時間では、二つの新聞の社説を準備して討論を行うこととした。この二つの社説には一つの社会的事象に対して対照的な(反対の)意見が書かれている。

最初に2紙のうちどちらか1紙の社説だけが書かれたプリントを生徒にランダムに配り、それに対して意見を書かせた。その後、班単位での討論を行った。そうすると、生徒は一方の意見だけしか読んでいないため、討論では意見が割

れ、議論は平行線をたどることとなった。そこで、生徒にお互いのプリントを読んでみるように投げかけた。これによって、自分たちの意見や考えがいかにメディアの情報によって流されているのか、さらに情報を批判的精神をもって読むこと(リテラシー)の大切さに気づかせることができた。その後、どのようにメディアの情報と向き合っていけばよいのかを考えさせて授業を閉じた。以下は生徒の授業の振り返りである。

- ・私は、人に流されずに自分の意見をもつことができていると思っていたが、今日の授業で簡単に流されていたことに気づいて驚いた。
- ・これからのメディアとのつきあい方について考えさせられた。情報を受け取るだけで満足してはいけないと感じた。

●4. おわりに

今回の授業の振り返りの中に「政治を身近に感じる事ができた」、「政治に少し興味をもつことができた」という生徒の感想がいくつかあった。生徒には、政治は自分たちにとって遠いもの、難しいものという強い先入観があると感じていた。政治学習の最初にその先入観を取り払うことで、生徒はその後の学習において主体的に「なぜ」から「どうする」かを考えることができた。これは「社会を観る」目の③「未来を見据える目」が育ってきているためと考えることができる。さらに単元の最後の「現代日本は民主主義の国といえるのか」の問いに対する自分の考えをまとめたレポートからは「社会を観る」目が単元を通じて着実に育ってきていることを感じた。授業を通して「社会を観る」目を育てていった生徒が将来、自分の考えた「どうする」かに向き合い、行動することのできる大人になっていることを願う。

古代の学習でのワンポイント活用例

～拡大表示とマスク機能で資料の読み解きクイズ～

吉田 英文

●よしだ ひでふみ／東京都立府中東高等学校教諭

◆**単元名**：第2章 原始・古代の日本と世界

「⑫木簡と計帳は語る」(教科書pp.40-41)

◆**本時の目標**：

「誰が税を負担するのか」という視点で、古代の土地制度や税制を理解する。その際、公地公民制といわれる国家による個人身

把握を、「計帳」という具体的な資料から読み解く。内容の理解とともに資料読解の力も身につけさせたい。

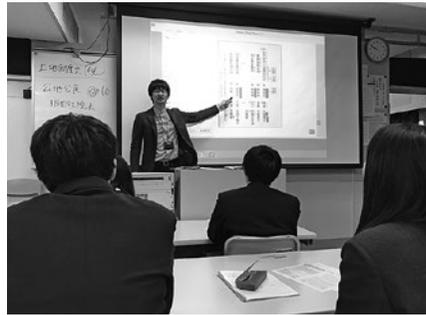
◆**指導にあたって**：

○本時は、生徒が苦手とする土地制度史を扱う。公地公民制や個人身把握という用語を、

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校算数で習う「九九」はいつ(何時代)からあるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・九九の計算が班田収授に基づく条里制や税徴収に活用されたという説を紹介する。 [横山和輝『マーケット進化論』日本評論社、2016] 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクタで条里制の画像を表示。 ・自作プリント [『万葉集』巻11, 2542の歌から九九の使用が読み取れる。] 「若草乃 新手枕乎 卷始而 わかぐさの にひたまくらを まきそめて 夜哉將間 二八十一不在國 よをやへだてむ にくくあらなくに
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ●班田収授を行うための個人身把握の具体例として計帳を読み取る。 【問】どのように一人ひとり把握していたのだろう。 【問】年齢と書かれているが、「陸拾玖」や「参拾肆」は何歳だろう。など ●税を集める方法だけでなく、租・調・庸の内容や貴族の暮らしについて教科書の資料をもとに確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「陸拾玖」や「黒子」の横にある「六十九」や「ほくろ」などのルビを、デジタル教科書のマスク機能(スタンプ機能でも可能)を使って隠しておく。漢字の意味を個人、そしてグループで予想し、発表させる。その際、教科書には答えが載っているので見ないように指示する。 ・教科書に記載されてない他の漢数字を板書し、なぜ難解な漢数字を用いたのか予想させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書(プロジェクタでスクリーンに映す)  ・自作プリント 計帳の詳細や墾田永年私財法の補足資料。 [『神亀三年山背国愛宕郡出雲郷雲下里計帳(正倉院文書)』東京大学史料編纂所のホームページ内「奈良時代古文書フルテキストデータベース」から入手できる。]
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ●偽籍などにより個人身把握は次第に困難になっていくことを次回の展望として示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえりシート」に授業の感想、偽籍の読み取りや次回の予想を記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・偽籍の具体例 [『阿波国板野郡田上郷延喜二年戸籍』『平安遺文』188]

資料提示：資料をクリックして拡大
 ・ツールタブ → 範囲拡大表示
 ・授業支援タブ → マスク機能(事前)



① デジタル教科書を使用して説明する様子

抽象的なものとしてではなく、事例や資料(史料)の読み取りを通して具体的に理解できるように工夫をした。漢数字の読み取りを行う際には、教科書だとルビがふられているため、答えがわかってしまう。そこでデジタル教科書のマスク機能が役に立つ。

○「壺」「貳」「参」「肆」「伍」「陸」「漆」「捌」「玖」「拾」「佰」「阡」といった漢数字は、普段あまり見る機会のない生徒の興味を喚起するようで、好評である。現在も領収書などに使われる例をもとに、偽造防止という視点に気づかせたい。また、これらの学習は明治時代の地券の読み取りでも活用でき、役立てることができる。

◆デジタル教科書活用のねらい：

個別人身把握の具体的な資料である計帳の読み取り場面で活用する。前述のように、教科書には答えが書いてあるため、マスク機能で隠すことでクイズのようにすることができる。

◆生徒の反応：

○印刷物の資料だと、全員の生徒が学習に取り組んでいるか、学習課題を共有している

か、把握しにくいところがある。しかし、デジタル教科書の場合、一つの大画面に映すため、すべての生徒が学習課題を共有し(もしくは生徒が共有できているか教師が確認し)、授業を進めることができる利点があると感じられた。

生徒の声

- ・1000年以上前の古代に、頬の黒子(ほくろ)や傷などを記載して一人ひとりを管理していたことに驚いた。現在のマイナンバー制度に近い制度がこの時期にあったなんて。
- ・難しい漢字で数字を表記していたのが、偽造防止のためということに納得した。
- ・計帳に「逃」の文字があり、古代に一人ひとりを管理する制度はうまくいかないと思った。

◆授業を終えての感想・今後の課題：

- デジタル教科書を事前に用意しておくことで、普段よりも教壇(前)から生徒たちの学習の様子を見渡せる余裕ができた。
- デジタル教科書を拡大して表示したが、後ろの席の生徒にとっては見えにくいところもあったようだ。手元にある印刷物の資料との併用を課題に感じた。

編集部より

歴史学習における資料の読み解きで、デジタル教科書を活用していただきました。資料の拡大表示は、デジタル教科書の最も基本的な機能ですが、学級全体を一つの資料に注目させたい場面で有効に活用されています。さらに吉田先生は、マスク機能で資料の一部を隠してクイズ形式のやり取りをすることで、生徒の興味を喚起する工夫を加えています。このひと工夫は少し手間かもしれませんが、データを保存することで他のクラスの授業でも活用することができます。ぜひ先生方も参考にしてください。【教育出版ホームページにてデジタル教科書の活用例を紹介しています。】



第15回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2017年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2017年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
 ◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
 *協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



ツバメに借家

去年から、うちの外灯の上にツバメが巣を作るようになりました。実はツバメが下見に来た時、巣を作らせないようにビニールをかぶせました。しかし、新聞で「都市部のツバメの子育て受難」の記事を読み、ビニールをはずしました。ふんで玄関が汚れないように外灯にラップをかけ、下にカゴをつけ、新聞紙をひいて受け入れました。ヒナの成長を観察、見守ることができてとても幸せな気分になりました。

【表紙写真】チロルの州都インスブルックの町並み。アルプスの山々に囲まれた町は、古くからドイツとイタリアを結ぶ交通の要衝として栄えた(上写真)。ウィーンにあるシェーンブルン宮殿の皇太子の庭園。ハプスブルク家の離宮である宮殿は、17世紀末に壮麗なバロック様式の狩猟の館として改築されたが、18世紀半ばにマリア・テレジアの指示で拡張・改装が行われ内部は優美なロココ様式となっている(下写真)。(2016年 オーストリア)

中学社会通信 Socio express (2017年 春号)

2017年3月31日 発行

編集:教育出版株式会社編集局
印刷:大日本印刷株式会社

発行:教育出版株式会社 代表者:山崎富士雄
発行所:教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (内容について)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp> 03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411